

資料 - 10 濁り予測に関連する参考図書

本項では、濁り拡散計算を行う上で、現況把握が必要な流況等の調査方法と、濁りによる影響の可能性が想定される動物・植物・生態系等の環境要素及び港湾工事と関連の深い埋立・干拓事業に関する調査、予測、評価等の環境影響評価の進め方について解説されている参考図書を整理した。

(1)濁り予測の際に必要な環境調査項目について

流況の調査に関する参考資料としては、「海洋観測指針(第一部),編集気象庁、1999」があり、潮流観測の基本的な調査方法について示されている。

また、流況・底質及び水質汚濁全般に関する環境影響評価手法についての参考資料としては、「環境アセスメントの技術、(社)環境アセスメントの技術、1999.8」があり、水質汚濁に関する調査手法、予測手法、評価手法について、主に技術的な側面から具体的に解説されている。

また、「大気・水・環境負荷の環境アセスメント()()(),環境省編、平成12年～平成14年」では、流況、水質、底質を含む水環境に関する方法書段階での検討の進め方、調査、予測の進め方、環境保全措置、評価及び事後調査についての基本的な考え方と具体的な例示(ケーススタディ)がとりまとめられている。

なお、粒度組成については、JIS A 1204 においてその試験方法が定められており、その方法に準拠することが基本となる。

沈降試験については、本編「5.5 沈降速度」において示した試験方法を基本とすることとなる。

(2)動物・植物・生態系の環境影響評価参考資料

動物・植物・生態系の環境影響評価に関する参考資料としては、「生物多様性分野の環境影響評価技術()()(),生物の多様性分野の環境影響評価技術検討会、平成11年～平成13年」がある。

同資料では、動物、植物、生態系に関する方法書段階での検討の進め方、調査、予測、評価の考え方、環境保全措置の検討の進め方についての基本的な考え方と具体的な例示(ケーススタディ)がとりまとめられている。

(3)自然との触れ合い活動の場の環境影響評価参考資料

人と自然との触れ合い活動の場についての環境影響評価に関する参考資料としては、「自然との触れ合い分野の環境影響評価技術()()(),自然との触れ合い分野の環境影響評価技術検討会、平成11年～平成13年」がある。

同資料では、人と自然との触れ合い活動の場に関する方法書段階での検討の進め方、調査、予測、評価の考え方、環境保全措置の検討の進め方についての基本的な考え方と具体的な例示がとりまとめられている。

(4)埋立・干拓事業等の環境影響評価に関する参考資料

環境影響評価法の対象事業としての埋立・干拓事業の環境影響評価の基本的な考え方は、前述のとおり、主務省令「平成10年6月12日、農林水産省・運輸省・建設省令1」に示されている。

調査、予測、評価を行う際の具体的な考え方を解説した資料としては、「港湾分野の環境影響評価ガイドブック 1999、(財)港湾空間高度化センター、平成11年9月」があり、埋立・干拓事業による環境影響を検討する上での調査や予測、評価の考え方について解説されている。